

吉野川市立山瀬小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- ① 主体的・対話的で深い学びを育む学習指導方法の改善
- ② 他者との関わりの中で伝え合う力を高める言語活動の充実

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 藤本美恵子	委員
	校長：森本誠司・教頭：平尾志保・研修主任：橋本加寿代
	低学年推進員：林沙緒理・中学年推進員：本多謙一郎
	高学年推進員：内田真生・特別支援推進員：矢部明子

校長

森本 誠司

【小中連携または中高連携における共通の取組】

表現力を高めるために、学習のまとめや自分の考えを書く時間を確保する。

【各校における実行プランの取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○国語・算数の基礎・基本的な知識については一定程度定着している。 ●語彙力・読解力・聞く力・目的に応じて書く力など、国語の力に不足している点がある。特に聞く力が全体的に弱い。	・基礎的・基本的な知識・技能を確実に身に付け、進んで文章を読んだり、書いたりすることができる。 ・学年に応じた「聞く力」を習得し、話や文章の要点を聞き取り、自分の言葉で話したり書いたりできる。	・学年に応じた「聞く力」の育成のため、「話をしている人の方を向く」などの基本的な事柄を徹底するようにし、興味を持って聞くような教材を用いて「聞く」ということを意識させる。 ・学力定着のため、学習内での振り返りのとき、自分の言葉で話したり書いたりさせる時間をとる。	・Aさんの発言をBさんに問い直す。聞いた内容を自分の言葉で説明させるなど聞いた力がついているかの確認を行う。 ・語彙力をつけるために、ICTを活用して言葉の意味などを調べ、説明させる。	・話を聞こうとする姿勢が身につき、話を聞く意識が高まってきたが、引き続き指導が必要である。 ・語彙力をつけるために、教師がICTを活用して画像を見せたり、実物がある場合は実物を見せたり、動作化させたりすることで言葉の意味など理解させることができた。	・語彙力に関する取り組みに特化し、次年度は取り組んでいく。 ・新しく知った言葉を常時掲示したり、活用する機会を設定したりする。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○定型文のような型があれば、定型文に当てはめて表現ができる。絵や文で表現することには意欲的である。 ●適切な資料を選び、比較したり、要点をまとめたりして、自分の思いや考えを筋道を立てて表現するのが苦手である。	・自分の伝えたいことに関わる適切な資料を選び、資料どうしを比較したり、これまでの経験と照らし合わせたりしながら、考えをまとめることができる。 ・習得した語彙を活用し、自分の伝えたい事柄を、相手に伝わりやすい方法を選び、伝えることができる。	・発表の仕方や文章の書き方の文型や手引きを示し、各学年の課題に基づいた表現が行いやすいようにする。 ・一人一人に発表する機会、日記や短作文を書く機会を設ける。各教科等で、ホワイトボードやタブレットを継続して活用する。	・文章の書き方のパターンを複数提示し、子どもが選んで書けるようにする。 ・それぞれが書いた文章を他者と共有できるようにする。	・発表の仕方や文章の書き方の文型を自分で選んで表現することができるようになった。 ・スピーチに対して5W1Hをもとに質問を考えることで、どんな質問をしたらよいか理解し、質問が増えた。	・同じ文型、型式のものをくり返して、マネしたり覚えたりして基礎を身につける。 ・誰に当てた文章で何のために書くのかといった目的意識をしっかりと提示する。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○興味があることについては、集中して取り組むことができる。 ●自分から進んで課題を見つけ、追求しようとする意欲が乏しい。	・体験活動を通して、自ら見つけた課題や指導者が提示した課題に、粘り強く主体的に取り組む学が楽しさや喜びを感じることができる。	・児童が主体的に取り組むことができるように、授業導入時に、動画を活用するなど興味を引くような工夫をする。 ・ICTなどを活用し、学習した内容を他学年に伝える機会を作り、他学年との関わりを通して、学習に取り組む意欲を高める。	・導入時に動画を活用し、児童が自ら課題を設定できるようにする。 ・学習活動や評価について、見通しがもてる機会を増やす。	・他学年との関わりのある活動では、どの児童も主体的に書いたり話したりすることができた。 ・見通しがもてるようにすればやらなければならないことがはっきりし、自主的に進めることができる。	・引き続き他学年との関わりのある活動を行っていく。 ・既習内容を確認し、見通しをもたせる。

